

# 職人の技術とハイテクが融合した 薄肉物の旋盤加工



## 中川鉄工株式会社

**歴史に裏打ちされた  
職人のこだわりや技が  
最新技術と鮮やかに融合**

大正6年の創業以来、「匠の技術」「ものづくりへのこだわり」を念頭において、機械加工に取り組んできた中川鉄工。もともとは汎用旋盤を中心とする鉄工所として立ち上げ、機械加工一筋に90年余りの実績を積み重ねてきた。

現在、主軸となっているのは、プラント関係の精密加工部品。その他、航空機部品、原子力関連部品、工業用電熱機器部品、車両部品、理化学機器部品、医療機器部品等、様々なものを扱う。面白いところは、自動車のカスタムパーツや電子顕微鏡のパーツ、スノーバイクのパーツ等も製造している。

職人的加工技術と最新のNC加工技術という、いわばローテクとハイテクをうまく融合させた薄肉物の旋盤加工を得意としており、試作段階から幅広く対応できるのが特徴。大きさは、10数cmの掌サイズから1m弱まで。丸物ならばリング状で1m弱までを手がける。製作個数も1個から100個ロットまで対応が可能だ。

加工材料は、鉄、銅、ダイス鋼、ハイス鋼、ステンレス、インコネル、チタン、アルミ、真鍮、銅、等。それら材料が職人の手を介し実に多彩に姿を変えていく。特に、精密部品に使われる薄肉加工品は、肉厚をミリ単位になるまで削り、ミクロン単位の調整が必要である。金属の材質によつては、加工時に手で触れたただ

けで、ひずみが生じるものもあるという。熟練の職人でも慎重になる難しい加工だ。

**創業100年に向けて  
新分野にも  
技術とこころで応える**

千変万化する状況の中、創業100年を迎えていくにあたり、既存の顧客だけではなく、新たな顧客取得に向けてのアピールも必要になってきた。そんな中、近年、力を入れているのが、航空機部品の分野だ。大阪の金属加工業社5社で「次世代型航空機部品供給ネットワーク」を結成した。しかし、その活動をスタートさせると同時に要求されたのが、今まで以上の品質管理とコスト管理、確実な納期、等を含めた「精度」だった。

「時代に求められているものが、課題として目の前に現れたのです。そこで、ISO認証を取得することになりました」と中川裕之社長。整理、整頓、清掃の3Sをベースに、ISO9001認証取得に向け、プロジェクトをスタート。平成20年9月に無事取得することができた。

また、同社のものづくりの底力を支えているのは意識を含めた人の力だ。必ずしも熟練工でなくても対応できる自動機だけでなく、一人ひとりの技術力と経験が必要な汎用機使用にも重きを置いているため、製造の手を止めることなく、後進の育成も順調に行われている。

む、という姿勢を常に忘れないようにしています」と中川勲会長。まずは人を育て、社員が気持ちよく働ける環境を整え、企業を活性化させる。その結果として、お客様のニーズに確実に応えられる技術と体制が整い、社会に貢献していける製品作りができるのだ。

### 主な事業内容

理化学機器部  
品、半導体製造  
装置部品、原子  
力関連部品、機  
器部品、医療機  
器部品、メカニ  
カル部品、大連  
学研究所部品  
の加工等



中川 勲さん  
取締役会長



中川裕之さん  
代表取締役

中川鉄工株式会社

Company  
Profile

住所 / 〒536-0008

大阪府大阪市城東区関目2-5-17

創業 / 大正6年4月

設立 / 昭和50年8月

資本金 / 1,000万円

従業員 / 14名 (平成21年1月現在)

TEL / 06-6939-8519

FAX / 06-6939-0667

ISO 9001

大阪  
20

<http://www.nakagawa-iw.com/>